



2008  
平成20年

8

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。  
お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ● 狛江市地域活性課  
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5  
☎ 3430-1111 FAX3430-6870  
Email=wacco@city.komae.lg.jp  
編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press  
〒201-0012 狛江市和泉 3-2-16  
プランツベルツ 201  
☎ 3430-6617 FAX3430-6743  
Email=wacco@k-press.net

# 自然の中で都会の子 が水泳や農作業体験

四谷区教育会のプール

1932年



都会の子どもたちでにぎわうプール

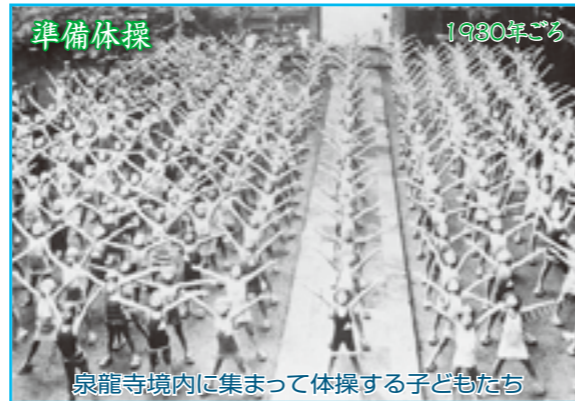


## 夏季学園

静かな田園地帯が広がり、多摩川が清流だった大正から昭和初期には、夏になると狛江に都心の子もたちが数多く訪れた。都心からの交通便が良く、豊かな自然にふれられる林間学校や夏季学園の好適地として、多摩川沿いにあった玉翠園（中和泉）や泉龍寺（元和泉）が使われたほか、プールや施設も建設され、下谷区（現・台東区）、四谷区（新宿区）、牛込区（新宿区）など都会の子たちの歓声が響いた。

準備体操

1930年ごろ



泉龍寺境内に集まって体操する子どもたち

### 豊富だが冷たかったプールの水

大久保益男さん（83歳・元和泉）の話

昭和の初めごろ、泉龍寺の周辺は水が豊富で池が数カ所ありました。弁財天池の西側には、長さ50m、幅20m、深さ80～130cmのコンクリート製のプールがありました。昭和7年に四谷区教育会が夏季学園のために造ったものです。底のコンクリートはかなり厚かったのですが、わき水の圧力で持ち上がってしまう

ため、2カ所に穴を空け、そこから水をわき出させて圧力を弱めていました。プールにはいつも水があふれるようになって、清水川に流れ出ていました。工事で出た土でプールと小田急線の線路との間に花壇が造られ、都会のような雰囲気でした。小学校高学年の子たちが都心から小田急線でやってきて、水泳を習いました。ほとんどの子が日帰りでした。明治大学の水泳部の学生が子どもの指導やプールの管理にあたりましたが、学生の中にはオリンピックに出た有名な選手もいました。狛江の子はプールに入れないのですが、私の家は近くで料理屋を営んでおり、母親がプールに売店を出していたので、毎日のように泳ぎました。プールの水は弁財天池から引いていて、週1回、地元の人などが出入り替えと清掃を行いました。夜10時ごろに新しい水を入れるのですが、池の魚も入ってしまうので、近所の人が出て捕まえました。私も行きまし

たが、楽しかったです。地元の子と都会の子のけんかがきっかけで、交流するようになり、寺の境内で都会の子たちに虫取りなどを教えました。

このプールは水が冷た過ぎたためか使われなくなりました。現在の西河原公民館の場所に「四谷教育農園」が造られ、四谷の子どもたちはそちらへ通うようになりました。建物は木造2階建てで、バラ園や温室などがあり、子どもたちは泊まりがけで農作業をしたり、多摩川で泳ぎを習いました。



弁財天池のほとりに現在も残る四谷教育会が立てた灯ろう

### シーズンオフは釣り堀に

石川英夫さん（81歳・元和泉）の話  
大久保益男さんに誘われて、夏は毎日のようにプールへ遊びに行き、泳ぎを覚えました。水が冷たくて長く泳いでいられず、上がってコンクリートに寝そべってこらう干しをしました。当時は、そんな所はほかにはないので、すごく新鮮で、いまでも覚えています。  
都会の子たちは泉龍寺で昼食をとったり、勉強や体操をしていました。秋になると、プールにコイとフナを放流して「江遊園」という名の釣り堀になりました。小田急に勤めていた釣り好きの父が企画して、週末には新宿の大きな釣具店と小田急がタイアップして釣り大会を開き、毎回盛況でした。

### 戦争中は騎馬隊が疎開

吉川ミチ子さん（76歳・元和泉）の話  
昭和13年に自宅の前でできた四谷教育農園で、鈴木金太郎という人の胸像の除幕式に姉（塚原ヤエ子さん）と一緒にいきました。その時にもらったお団子がすごくおいしかったのを覚えています。農園では、狛江の大久保峯次郎さんが花や野菜の栽培の指導や管理をしていました。ときどき農園へ行って遊び、建物にも入りましたが、1階に教室、2階に大広間と炊事場、フロなどがありました。戦争中は子どもが利用しなくなって、19年には近衛師団の騎馬隊が疎開してきて、数十頭の馬が散歩しているのを見ることがあります。戦後になって、馬を譲ってもらった村人もいたそうです。また、村が借りて、新制中学（現・第一中学）の校舎ができるまで、仮教室として使いました。その後はほとんど使われず、45年ごろに火事で全焼してしまいました。このあたりはマムシなどのヘビが多くて、火事場を見にいくと、死がいがたくさん転がっていました。

四谷教育農園

1938年ごろ



現在の西河原公民館の場所に建てられた

プールの廃止後は、アユの養魚場になりましたが、エサに蚕のさなぎを与えていたせいか、育ち過ぎて市場に出荷しても売れず、2年で閉鎖されました。その後は、土を入れてハス田になりました。

みこし担ぎ



四谷区教育会の夏季学園

写真はいずれも1933年

泉龍寺の清掃



泉龍寺での食事



多摩川で水泳



多摩川で魚釣り



### 玉翠園にできた林間学校

塚原ヤエ子さん（78歳・岩戸北）の話

大正時代に祖父の井上半三郎が玉翠園を経営していましたが、その兄が下谷区の現在でいう教育長をしていた関係で、区の「教育会附属体育所」が敷地内に造られました。いまの林間学校です。最初は「男組」と呼ばれる100畳敷きの部屋が建てられ、続いて同じ大きさの「女組」と呼ぶ部屋が造られました。多摩川の岸には、底はコンクリートで、周りを板で囲った長さ25mぐらいのプールも造られました。都会の子たちが2泊3日ぐらいでやってきて、多摩川やプールで泳いだり、林で虫採りをしたりしました。私も小学生の時、売店などの手伝いをしました。お土産用に「鮎せんべい」を売っていましたが、お客がすごく混んだとき、見本用の紙袋を間違えて林間学校の子に売ってしまい、「少ないおこづかいなのに悪いことをした」といまでも気になっています。夜は子どもたちの演劇やアトラ

クションがあり、「都会の子は恥ずかしがらなくて活発だ」と思いました。ある時、周りから「お前は落語家の子だから落語をやれ」と言われている子がいて、それが林家三平だったことを後で知りました。夜は部屋にカヤをつるのですが、すごく大きくて、おとなが何人もかかってつたことを覚えています。昭和16年に戦争が始まって、だんだん利用されなくなってしまいました。

附属体育所

大正時代



下谷区教育会が玉翠園に建てた

写真提供・取材協力=大久保益男、石川英夫、塚原ヤエ子、吉川ミチ子、井上俊雄、小町惇（順不同敬称略）資料=「狛江の民俗Ⅳ」、（狛江市）